

講演会

二世紀のフランス文学

資本・越境・記憶

講演者：野崎歓氏

(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授)

日時 2010年12月3日【金】
17:00 ~ 18:30

会場 神戸大学国際文化学研究所
大会議室 E棟4階 (401)

アクセス <http://web.cla.kobe-u.ac.jp/static/maps/html>

参加自由・無料

講演会終了後、懇親会(会費1,000円)を予定しております。準備の都合がございますので、11月29日(月)までに、参加希望の方は、下記坂本研究室までメールにてご連絡下さい。

お問い合わせ

坂本千代研究室

Tel:078-803-7425

Email:csakamot@kobe-u.ac.jp

異文化研究交流センター (IReC)

Tel/Fax:078-803-7650

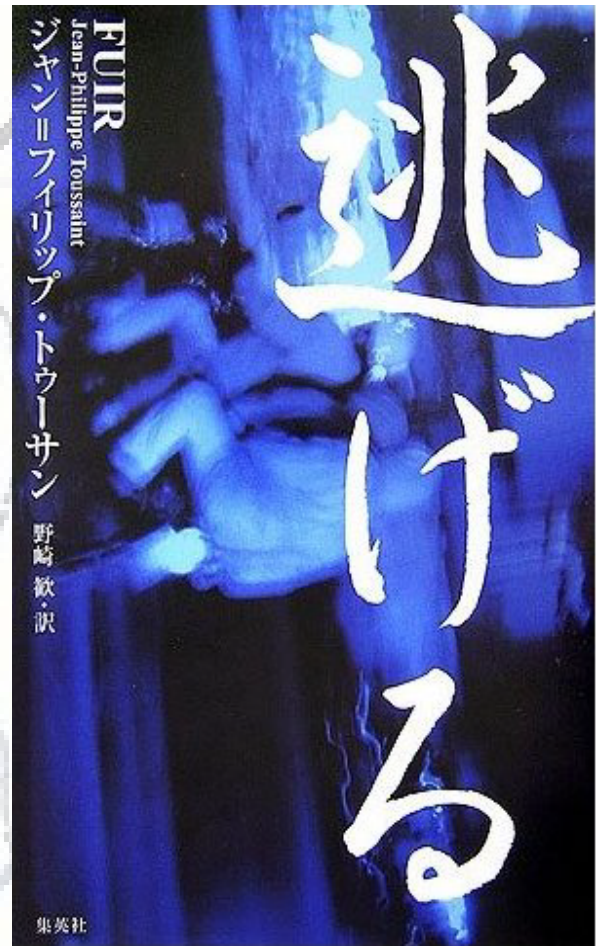
Email:irec@ccs-srv.cla.kobe-u.ac.jp

Philippe Grimbert
Un secret

講演会『21世紀のフランス文学

—資本・越境・記憶—

一方では、世界共通語としての英語に押されてフランス語のマイナー化に歯止めがかからず、他方では、巨大資本による出版界の再編が進む。厳しい状況にさらされながらも、フランス文学は現在、新たな隆盛の兆しを示しつつある。従来のフランス語圏文学の枠を突き破る、さまざまな国からの越境者たちがフランス語による表現に挑み、目覚ましい達成をなしとげている。また、若い世代の作家たちによる、歴史の深淵に大胆に踏み込む試みが相次ぎ、小説ジャンルはその社会的意義を増している。グローバリゼーションのただ中における「ローカル」な文化のゆくえを、フランス文学を例として考察する。



【講演者プロフィール】

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授。専門はフランス文学、映像文化論。『ジャン・ルノワール 越境する映画』（青土社）でサントリー学芸賞、『赤ちゃん教育』（青土社、のち講談社文庫）で講談社エッセイ賞を受賞。著書に『フランス小説の扉』『五感で味わうフランス文学』（いずれも白水社）、『谷崎潤一郎と異国の言語』（人文書院）、『香港映画の街角』（青土社）、『異邦の香り ネルヴァル「東方紀行」論』（講談社）など、翻訳にトゥーサン『浴室』（集英社文庫）、ウエルベック『素粒子』（ちくま文庫）など多数。



プログラム

- 17:00 ~ 18:30 講演
- 18:45 ~ 20:00 懇親会 (E棟4階学術交流ルーム)

会場までの交通案内

阪神「御影」、阪急「六甲」、JR「六甲道」下車。
市バス16系統「六甲ケーブル下」行に乗車。
「神大国際文化学部前」下車。徒歩3分。
※阪急「六甲」より徒歩で20分ほどですが、急な坂道が続きますので、上記バスのご利用をお勧めいたします。

神戸大学大学院 国際文化学研究科
異文化研究交流センター

